

## オゾンホール発見についての一文

最近、ある気象雑誌で、オゾンホールの最初の出現について、記述があった。この詳細に関しては、すでに、根本 (1988 a) が、“オゾンホール発見のプライオリティについて”を記述し、さらに、後で、同じく根本 (1988 b) が、“オゾンホール発見のプライオリティ再論”を書いている。本文は、これへの1つの補足的なものである。

話は少々古く恐縮だが、オゾンホールに関し、下記のような記事がある。

その題名は、“CHANGES IN POLAR OZONE”[著者：Rumen D. Bojkov (Chief of the Environment Division in the WMO Secretariat)] で、それは、WMO Bulletin Vol. 41 No. 2 (April 1992) に掲載されていたものである。以下は、その記事の1番最初の部分即ち序文 (Introduction) の始めの部分と、念のためその関連部分とを示す。

### 始めの部分：

#### Introduction

The suggestion that chlorofluorocarbon (CFCs) could damage the ozone layer was put forward as early as 1974 and the first WMO Statement on Modification of the Ozone Layer due to Human Activities was released in 1975. It was not until 1984 and 1985, however, that observations of very substantial springtime Antarctic ozone reductions were noted over Syowa and Halley Bay stations, and reported by Japanese and British scientists respectively. This phenomenon, quickly dubbed the ozone hole (see box on page 173), focused world attention on the polar regions. In subsequent years, a great deal of field and laboratory data has been gathered for both the Antarctic and the Arctic. In the most recent ozone assessment (WMO Ozone Report No. 25, 1991), it was shown that ozone is declining everywhere outside the tropics albeit with smaller

amounts than the dramatic reductions occurring during the Antarctic spring.

### その関連部分 (box on page 173)：

(box 名 “Ozone scientific background” の中で)

What has happened to the total ozone ?

• In 1985, the Antarctic spring rapid ozone destruction dubbed ozone hole was first reported : 30-40 per cent losses in the total ozone had occurred during October every year since the late 1970s. The ozone recovers only after the circumpolar stratospheric vortex breaks down and extensive air exchange with mid-latitudes is re-established.

上と下線の部分では、南極春期におけるオゾンの異常な減少は、昭和基地とハレーベイ観測所とで注目され、日本人科学者と英国人科学者によってそれぞれ別々に報告され、この現象はすばやくオゾンホールに吹き替えられ (dubbing され) たと言っているようである。又、その関連部分でも、南極春期の急速なオゾンの破壊がオゾンホールに吹き替えられたことを示し、オゾン異常現象の発見が第一となっている。

そして、この日本人科学者は、忠鉢繁 (気象庁気象研究所) 氏を指すものと思われる。英国人科学者は J. C. Forman 氏であり、筆頭に日本人科学者がきている所に注目したい。

オゾンホールの発見当時、WMO はその説明にハレーベイの観測資料を使用していた。しかし、以後の調査に基づく上記の英文記事は、強いて言えば Bojkov 氏個人のものであるが、WMO 責任者の WMO 機関誌上の記事なので、これを妥当とすることに異論がないと考えて良いようである。これは、又、一面、根本順吉氏の意向を支援しているようである。

### 参考文献

Bojkov, Rumen D., 1992 : Changes in polar ozone, WMO Bull. 41, 171-180.

根本順吉, 1988 a : オゾンホール発見のプライオリティ

について（“根本氏へのコメント：忠鉢繁”を含む）、  
 天気, 35, 441-443.  
 根本順吉, 1988 b: オゾンホール発見のプライオリティ

再論, 天気, 35, 550.

(日本気象協会研究所 旭 満)

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

—国際学術交流委員会—

国際交流事業(天気32巻5号 p. 232)の一環として国際学術交流運用規定(天気41巻7号 p. 444)に基づき、国際学術研究集会への旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

### 記

#### 1. 対象の集会

A: 1996年6月1日～11月30日および

B: 1996年12月1日～1997年5月31日の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。ただし、ほかから援助のあるものは除く。

#### 3. 募集人員

若干名

#### 4. 補助金額

開催地域を考慮し最高15万円程度

#### 5. 応募手続

所定の申請書類(日本気象学会事務局備付)を期日までに国際学術交流委員会(〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内日本気象学会気付)に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日: A 1996年3月15日

B 1996年9月15日

注: 申請書は最新の様式のを日本気象学会事務局から取り寄せること。申請書の様式は断りなく変更することがある。古い様式の申請書で応募しても受理しない。

#### 6. 補助金受領者の義務

当該集会終了後30日以内に集会出席の概要を「天気」に掲載可能な形式で1ページ(2000字)程度にまとめ、報告書として委員会に提出する。